

和歌山病院での実習を終えて



高谷 茜

今回私達 T 班は、1 月 22 日、23 日の 2 日間を和歌山病院で実習させて頂きました。実習内容は胸部レントゲン画像の読影や結核についてのセミナーが中心で、他に結核病棟の見学といった貴重な体験をすることもできました。

どのセミナーも大変勉強になりましたが、その中でも胸部レントゲンに関するセミナーは特に良かったと感じました。教科書などからでも得られる医学知識の確認だけでなく、的確な質問をこまめに問うことで「何故そうなるのか」という筋道だった理論を学生自身を考えさせる内容であり、最初は戸惑いでしたが、進むにつれてとても楽しい講義でした。また今まで受けてきた大学の講義ではとにかく試験に通り、進級するためだけの勉強としてひたすらに知識を詰め込んできたため、今回のようなセミナーは新鮮で、非常に興味深く受けることができたようにも感じました。さらに内容を振り返ってみると、先生が言われたように「頭が錆びついている」というのも納得するほど進みは遅かったものの、講義内容は頭にしっかりと根付いていることが自覚出来ました。個人的にはこのような形式での講義がもっと増えれば良いと思うのですが、実際には 1 つのテーマに費やす時間、学ばなければならない内容量、何より講師への負担のバランスを考えると、この方法を採用することは難しいと思いました。

和歌山病院での実習はおおよそ 1 日程の時間でしたが、前述したセミナー内容を筆頭に大変身になる実習であったと感じました。ただ、あえて言うのであれば、スケジュール的に病院自体や診療行為についてはそこまでじっくり学ぶことができず、その点においては少々残念に思いました。

最後になりましたが、実習を受け入れてくださった院長先生、副院長先生、並びに和歌山病院の皆様に、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。